

資料3

令和3年度一般会計当初予算額は 150億5,700万円 前年比3.9%増

白石町の予算を家計にたとえると・・・

「財政用語が難しい」、「数字のケタが大きすぎて実感がわかない」と言われることが多いので、多少強引ですが、町の予算を約1/3,000して、家計簿に置き換えて表現しました。なお、完全な置き換えが難しい部分があることをご了承ください。

「もし白石町が年収500万円の家庭だったら・・・」として作成しています。

収 入	
給料 (町税、分担金及び負担金、使用料及び手数料など)	91万4千円 (18.3%)
貯金の解約 (各種基金からの繰り入れ)	58万9千円 (11.8%)
その他 (寄付金など)	20万円 (4.0%)
実家からの援助 (地方交付税、各種交付金、国県支出金など)	273万8千円 (54.7%)
借金 (町債)	55万9千円 (11.2%)
合 計	500万円

収入の柱は・・・給料の約91万円と実家からの援助の約274万円です。

支出は・・・日々の食費や電気代などの日常生活費、そして保険料などで約247万円、借金の返済に約58万円、家の改築などに約59万円かかっています。

今年は・・・コロナの影響や人口減少により給料の減少が続いています。そうした中、少ない給料ではやりくりが難しいので、日常生活費や家の改築などのためにはより一層の実家からの援助を頼りにし、さらには、これまでより借金を増やしたり、貯金を解約してやりくりを行っています。

これからの白石町の家計は？

収入については、町税（給料）の大幅な増加は見込めず、地方交付税（実家からの援助）も合併による優遇措置が終了し、今後も人口の減少などの要因により減少していくことが想定されます。また、国や県からの補助金も制度見直し等により削減されることも予想されます。

しかし、支出については、家族の医療費・介護費用（扶助費）などが年々増加の傾向にあります。また、中学校統合再編に向けた大規模な整備費用（普通建設事業費などの投資的経費）も必要になってきます。子育て支援や農林水産業の振興を始め、道路網の整備や老朽化する公共施設の管理（維持補修費）なども継続的に必要です。

子どもたちの世代に不必要な借金を残さないように、計画的な財政運営を行い、節約と使い道の工夫が大切になってきます。

支 出	
食費 (人件費)	83万4千円 (16.7%)
借金の返済 (公債費)	57万9千円 (11.6%)
家族の医療費・介護費用など (扶助費)	66万7千円 (13.3%)
家の改築、車・家電製品の購入代 (普通建設事業費などの投資的経費)	58万9千円 (11.8%)
家・車などの修理代 (維持補修費)	2万3千円 (0.4%)
電気・水道代などの日常生活費 (物件費)	67万4千円 (13.5%)
保険料、交際費など (補助費等)	95万8千円 (19.2%)
貯金 (積立金)	21万9千円 (4.4%)
子どもへの仕送り (国民健康保険などの特別会計への繰り出し)	36万5千円 (7.3%)
その他の支出 (貸付金など)	9万2千円 (1.8%)
合 計	500万円